

日仏教育学会2018年度研究大会 公開シンポジウム

「学ぶ」「働く」「生きる」をつなぐ —キャリア教育の今とこれから—

日時 2018年10月20日(土) 13時~17時

会場 愛知教育大学 第一共通棟201教室

(〒448-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1)

主催 日仏教育学会

第1部

基調講演(13:00~14:30)

「学校における青年期の課題と試練:成長・学習・キャリアの実現
—教員とキャリア・カウンセラーの役割と連携—」

シルヴィ・アミシ

(フランスキャリア・カウンセラー協会会長)
※日本語通訳有り



第2部

パネルディスカッション(14:40~17:00)

「『学ぶ』『働く』『生きる』をつなぐ
—キャリア教育の今とこれから—」

パネリスト:京免徹雄(愛知教育大学) 高網睦美(愛知教育大学)

清水克博(金城学院大学) シルヴィ・アミシ

指定討論者:三村隆男(早稲田大学・日本キャリア教育学会会長)

コーディネーター:古賀毅(千葉工業大学) 吉澤恭子(秋田大学)

後援:愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、愛知教育大学、日本キャリア教育学会、日本産業教育学会

参加申込:日仏教育学会員を除く一般の方は、事前申込は
必要ありません。直接、会場にお越しください。

参加費:一般の方は無料です。

【趣旨】

社会構造の変化が急速に進行し、先行きが不透明な現代において、子ども・若者のキャリア形成支援は各国に共通する教育テーマです。日本において、キャリア教育は「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成することを通して、キャリア発達を促す教育」と定義され、職業観・勤労観や汎用的能力の育成が目指されています。2017年3月の小・中学校および2018年3月の高等学校学習指導要領改訂では、教育課程全体を通じた実施が明記されました。しかし現実には、担当者である教員の専門性の不足、外部との連携体制の未整備、体験活動などイベントへの偏りなど、様々な実践上の問題も散見されています。

一方で、フランスでは戦前から現在に至るまで、国家公務員であるキャリア・カウンセラーが教員と協働してキャリア教育を担ってきました。いわゆるスクールカウンセラーではなく、キャリアを専門とするカウンセラーが学校に介入するのは、世界的にも独自のシステムです。

そこで本シンポジウムでは、フランスキャリア・カウンセラー協会会長であるシルヴィ・アミシ(Sylvie AMICI)氏を招聘し、キャリア教育の現状・課題・展望について議論します。特に国際的にも珍しいフランスのシステムは、多様な専門職が協働する「チーム学校」を進めようとしている日本に、大きな示唆を与えるのではないのでしょうか。さらに、アメリカのキャリア教育研究の立場からの指定討論をふまえて、日・仏・米の3カ国比較を行うことで、学校で「学ぶ」ことを将来「働く」こと、「生きる」ことにつなげるためにはどうすればよいか、参加者とともに考えていきます。

お問い合わせ : career.education.france@gmail.com

日仏教育学会2018年度研究大会実行委員会

会場アクセス

翌日の10月21日(日)に公開シンポジウム「学校から仕事への移行を再考する—高等学校キャリア教育の日仏比較—」を開催します。合わせてご参加ください



本シンポジウムは、日仏会館「2018年度日仏学術研究助成」を受けています。